

## LABOR EDUCATION

労働教育

**Kent Wong**

**Director, UCLA Labor Center**

ケント・ウォン

カリフォルニア大学ロサンゼルス校労働研究教育センター所長

全米労働教育協会(United Association for Labor Education: UALE)は、アメリカの労働組合や大学から労働教育者が集う全国レベルの協会であり、私はその初代会長を務めました。UALEは2000年に、アメリカの労働教育において長い歴史のある「大学労働教育協会」(University and College Labor Education Association)と、「労働者教育ローカル189」(Workers Education Local #189)が合併して設立されました。

UALEはアメリカの労働教育における豊かな伝統を築いています。その役割は、階級意識を築き、労働組合におけるリーダーシップを引き受けるように労働者を励まし、社会変革を進めるような教育を促進することです。

最初のアメリカの労働教育プログラムの一つは、1921年にニューヨークで設立されたBrookwood Labor Collegeです。Brookwoodは労働者のための2年制の寄宿制大学で、カリキュラムの中心には、労働や社会正義、平和が含まれていました。設立者は社会主義者で、非暴力による社会変革を促進するための労働者教育のビジョンを信奉していました。Brookwood Labor Collegeは、1921年から37年まで続けました。

今日まで存続するもう一つの重要な労働教育プログラムは、Highlander Folk Schoolで、Myles Hortonによって1932年にテネシーで開設されました。彼は、デンマークのFolk Schoolsから思いつき、アメリカ南部のアパラチア地方の貧しい労働者の要求を満たすためにHighlanderを発展させました。Highlanderは30年代の大規模な労働運動の時代に、労働組合オルグをトレーニングする上で、重要な役割を果たしました。60年代の公民権運動の中盤に、Highlanderは再び、公民権のリーダーという新しい世代をトレーニングする上で、重要な役割を果たしました。

Wisconsin School for Workersは、最初の大学を基盤にした労働プログラムとして、アメリカ中西部で1925年に開設されました。そのカリキュラムは、団体交渉や協約の実施、労働組合の運営、そして労働組合のリーダーシップ育成が中心でした。School for Workersは、最も古い大学基盤の労働プログラムで、現在もウィスコンシンで活動しています。

大恐慌の最中、大規模なストライキと抗議行動が全米で起き、1935年、全国労働関係法(National Labor Relations Act)が可決されました。この法律は、労働組合と労働者に最初の法的保護をもたらし、アメリカにおける労働組合員の急激な増加をもたらしました。第2次世界大戦のあと、アメリカにおいては労使関係の分野が急速に発展しました。大学では、調査と、新しい世代の専門家の訓練、拡大する労働組合と労使関係の分野を支えるための教育的行事を促進するプログラムを開発することで、この変化に対応しました。大学に基礎を置くレイバーセンターは主に、大きな公立大学から始まりました。それらの州では、大学にレイバーセンターを設立するよう交渉できる強力な労働組合がありました。

1945年、カリフォルニア大学バークレー校(UC Berkeley)とカリフォルニア大学ロサン

ゼルス校(UCLA)の労使関係研究所(Institutes for Industrial Relations)と、コーネル・ニューヨーク州校労使関係研究所(Cornell New York State School of Industrial and Labor Relations)が設立されました。1964年、労働組合と労働者が必要とする調査や教育に取り組むため、UCLAとUC Berkeleyのレイバーセンターが労使関係研究所のなかに設立されました。

2014年、UCLAレイバーセンターの50周年を祝いました。レイバーセンターは、労働組合や労働者の役に立つために、新しい調査や教育に取り組むという誇りある伝統を持っています。UCLAは、国内で最も大きく、かつ、良く知られた公立大学の一つです。UCLAレイバーセンターは、労働組合の活動において、最も活力あるセンターの一つです。大学と労働運動をつなぐ架け橋の役割を担っています。また、プログラムや活動を発展させるために、労働組合との活発なパートナーシップに大きく頼っています。UCLAレイバーセンターは、環太平洋地域の労働組合と労働者のグローバルな連帯を促進する最先端にあります。

## Research 調査

UCLAレイバーセンターは、「参加型のアクション・リサーチ」(Participatory Action Research)の価値を信じて、「調査における正義」(Research Justice)のモデルを採用しています。「参加型のアクション・リサーチ」とは、変革を推進するために調査を促進し、調査収集の過程に労働者を参加させて調査を広めます。「調査における正義」は、労働者たちに、特定の分野の専門家になり、知識を広げ、さらに広報担当者になって、その調査を利用して主張することを促します。

UCLAレイバーセンターにおける調査課題は、知識と労働運動の潜在的な可能性を拓き、公共政策を前進させて、労働条件と労働力の改善に取り組むことです。ここに3つの事例があります。私たちの調査が、どのように労働運動の強化に役立ってきたのか—経済的平等、移民の統合、そして人種間の平等において。

UCLAレイバーセンターは、経済的不平等における調査の最前線にいます。私たちは低賃金な仕事の急激な増加や地下経済の拡大、そしてロサンゼルスがアメリカの主要都市のなかで、どのように富の格差が最大に広がったのかについて実証しています。「賃金泥棒」(wage theft: 賃金不払い)と最低賃金についての調査もやりました。

2020年までにロサンゼルス市の最低賃金を15ドルに、現在の連邦最賃の倍に引き上げるという法律が、2015年夏、ロサンゼルス市と郡の両方で通過し、大きな勝利を得ました。この引き上げは、ロサンゼルス市の40%の労働者に影響を与え、経済的な公正において大きな突破口になるでしょう。ロサンゼルスはアメリカにおける第2の大きな都市で、カリフォルニアは最大の州です。そのため、最低賃金の勝利は、国内に影響をもたらすでしょう。

移民の統合問題について、UCLAレイバーセンターは、在留資格のない移民の若い人たちの問題についての先駆的な調査を行いました。私たちは、在留資格のない若い人たちに関する3冊の本を出版しました。それらは、移民の若いリーダーの新しい世代を教育するのに役立ち、カリフォルニア・ドリーム法の成立と、DACA\*として全米レベルで知られる移民政策の改革に影響を与えました。

\*DACA (Deferred Action for Childhood Arrival) : 16歳未満で2007年6月より前にアメリカに入国した者に対して、国外強制退去を適用除外し、更新可能な2年間の就労資格を認める措置で、オバマ政権が2012年6月から実施している。

カリフォルニア・ドリーム法は、カリフォルニアにおいてより高い教育を受けられるように、在留資格のない学生たちに学資援助をおこなっています。その結果、州における在留資格のない大学生は2倍になりました。同法は全国的に、在留資格のない学生への教育へのアクセスを支援するための政策モデルとして貢献しています。DACAの実施によって、60万人以上の在留資格のない移民たちが就労の許可を得て、国外退去に怯える生活からは免れました。調査は、彼らの収入が45%アップしたことを示し、彼らが地下経済の仕事に組み込まれることはなくなりました。UCLA レイバーセンターは、移民たちの医療へのアクセスについても調査しました。それは、「すべての人に医療を」を提供するために、カリフォルニアにおける新しい政策の推進に役立っています。

UC Berkeley レイバーセンターとの連携で、アフリカ系アメリカ人のコミュニティのなかに蔓延する失業と不完全雇用の問題を実証しました。仕事不足は貧困や犯罪、暴力を引き起こします。この調査は、UCLA レイバーセンターに、初めてのアフリカ系アメリカ人の労働組合リーダーシップ学校を開設させました。新しい世代のアフリカ系アメリカ人の労働組合リーダーを集めて、教育し、黒人労働者の就労の機会を広げるための労働運動を後押ししています。

2010年、UCLA レイバーセンターは、ロサンゼルス市に初めての黒人労働者センターを開設しました。同センターは、労働組合と黒人コミュニティの間に前例のないパートナーシップを発展させました。そして黒人労働者に就労機会を広げるという重要な政策を勝ち取りました。例えば、ロサンゼルス市は「地域採用」政策を立法化し、都心のアフリカ系アメリカ人が主要な公共事業に関する建設分野の雇用を得るために、仕事を提供しています。

## Education 教育

UCLA レイバーセンターは、民衆教育(popular education)を推進し、ブラジル人の教育者であるパウロ・フレイレとテネシー州のハイランドセンターの教育法を利用しています。私たちはUCLAで講義をもっています。そこでは毎年、300人の大学生に、労働団体やコミュニティ組織のインターンに参加する機会を提供しています。UCLA レイバーセンターは、このようなインターンをとおして、学生や若い労働者を、ロサンゼルスや全国の労働運動の仕事に送り出しています

カリフォルニア大学ロサンゼルス校レイバーセンターは、ドリームサマーを開設しました。過去5年間以上で、500人の在留資格のない若い移民のリーダーたちを、15州の労働団体やコミュニティ組織にインターンに就かせました。そして、在留資格のない学生たちへの奨学金を250万ドル集めました。

教育活動には、労働組合やコミュニティのリーダーのために、現在進行中のリーダーシップ学校や会議、ワークショップが含まれます。20年以上にわたって、UCLAのコミュニティ研究者プログラムは、大学院生と一緒に調査・研究を行うために、労働組合とコミュ

ニティのリーダーたちをロサンゼルスに集めました。この民衆教育プロジェクトは、移民や労働者センター、在宅介護労働者、製造業労働者、そして建設労働者を巻きこんだ、一連の革新的な経済的公正戦略構想へとつながっています。

UCLA レイバーセンターは、一連の労働組合リーダーシップ学校も推進しています。2016年夏、労働組合の女性たちのためのサマー学校を主催します。国際代表と共に、西部州の出身の新しい女性リーダーたちを集めます。数年前、日本から来た労働組合の女性リーダーのグループが、UCLA のサマー学校に参加しました。

### **Global Solidarity** グローバルな連帯

UCLA レイバーセンターは、前進するグローバルな労働連帯の最前線にいます。特に、環太平洋地域において。

私たちは、高須裕彦と青野恵美子が UCLA レイバーセンターで活動し、数年前に、一橋大学に最初のレイバーセンターの設立に力を貸したことを誇りに思います。

22年前、ロサンゼルスのホテル労働者が、ロサンゼルスダウンタウンにあるニューオオタニホテルで組織化キャンペーンを始めました。ホテルのオーナーである鹿島建設は強力な反組合キャンペーンを展開しました。ロサンゼルス労働組合のリーダーたちは、グローバルな連帯を築くために訪日して、労働組合のリーダーたちと会いました。そのホテルの現在のオーナーはヒルトンですが、ついに先月、組織化に成功しました。22年たって、報告できることをうれしく思います。

私たちは、中国とベトナムにおける労働組合に対する、アメリカの労働運動の政策を変えようと、労働連帯プロジェクトに取り組んでいます。過去15年間、アメリカの労働組合リーダーの代表団を組織して中国とベトナムを訪問し、中国とベトナムからの労働組合リーダーの代表団を受け入れてきました。

現在は、メキシコとエルサルバドルで数多くの連帯プロジェクトに取り組んでいます。親のいない未成年者のために支援をおこなっています。彼らはアメリカに来るために、中央アメリカでの暴力と貧困から逃れて来た人たちです。アメリカとメキシコの労働者たちがつながりながら、労働者を組織化しようと活発なキャンペーンを展開しています。

UCLA レイバーセンターは、調査や教育、そして労働者の正義のためのグローバルな連帯を発展させる、次の50年を楽しみにしています。